

特定非営利活動法人 組織学会

定例会

全4回シリーズ企画

組織・経営研究の新潮流 (第4回)

2025年2月7日(金)

19:00~20:30 (18:30 受付開始)

会場：コンファレンススクエアエムプラス(10F グランド)

交通：JR東京駅 丸の内南口徒歩2分

<https://www.marunouchi-h-c.jp/building/2/conference>

参加費：組織学会会員1,000円・一般2,000円

会場定員：100名(要事前予約)・オンライン参加

参加申込専用サイト：

<https://forms.gle/ZjKn6kYaeQhzdKTe9>

労使関係の組織行動論：

従業員の伝わる声・

伝わらない声

—この時代にこそ労使対話を再考する

なかがわ りょうへい

中川 亮平

長野県立大学 教授

専門分野：企業統治、労働経済



東京三菱銀行、American International Group (米国)、World Economic Forum (スイス)、立命館大学国際関係学部講師、京都外国語大学准教授を経て長野県立大学へ、2024年より現職。東京外国語大学ポランド語専攻卒、米国コロンビア大学国際事情修士、大阪公立大学より博士号(経営学)。

討論者

司会者



古川 寛氏

帝人株式会社 人事部長

<https://www.teijin.co.jp/>



南澤 宏樹氏

帝人労働組合 顧問

(帝人労組元組合長、UAゼンセン元副会長)



江夏 幾多郎

神戸大学

経済経営研究所 准教授

専門分野：人的資源管理・雇用関係



日本において特徴的とされる企業別労働組合には、労使間の心理的距離が近いことによる長所(労組が会社の経営に関わる現場の意見を上層部に伝えやすい)と短所(元来上司と部下の関係であり条件交渉が困難になる)がある。このような環境下、従業員は組織のために提案し、自らのために要求できているのか。

従業員と企業はどのように緊張関係を維持しているのか。企業別労働組合は企業との癒着を生むのか、発言を促すのか。これらの問いについて労使関係の変遷を振り返りながら豊富なインタビューから解明し、企業別労働組合自体は毒でも薬でもなく、従業員が発言できているかどうかの鍵となるという議論を提示する。

(お問い合わせ)

特定非営利活動法人
組織学会
(企画・定例会委員会)

URL: <https://www.aaos.or.jp>
TEL: 03-5220-2896

(平日11時~17時)

メール: aaos.seminar@gmail.com

協力：三菱地所株式会社

『労使関係の組織行動論
—従業員の伝わる声・伝わらない声—』
2024 中央経済社